

「結果生かせるのか？ 結果減ぼすのか？」

第一ペテロ 1:12-17

■ 物事の向こうにある真実

ディ・ギャラントという生物学者の話をしたと思います。彼女が犬を連れて森を散歩していたところ、野生のピューマがいることに気づきました。彼女はとっさに携帯電話を取り出して、ヘヴィメタルバンド「メタリカ」の『Don't Tread On Me』という曲を再生しました。すると、聴いたことがない音に驚いたピューマは逃げていき、彼女は命拾いをしました。この出来事を SNS で発信したところ、「メタリカ」のリーダーであるジェイムズ・ハットフィールドに話が伝わります。ディ・ギャラントは当初曲に助けてもらったと思っていましたが、本当はこの曲を作った人に助けられたのだということに気が付きました。私たちは、目の前で起こる出来事に感謝することはできません。しかし、その出来事の本当の部分にまで思いを向けることが出来ているでしょうか。彼女は自分の命を救ったのはこの曲だと思っていましたが、曲を作った「彼」に命を助けられたのだと気づくことが出来ました。私たちは自分の本当の姿に目を向けることができているのでしょうか？ 私達の人生が置かれた場所で咲くべき時に花を咲かす為にはどのようにしたら良いのでしょうか？

■ 『聖さ』(内側を保つ事の難しさ)

私達は聖さと言われると清廉潔白であることなどをイメージしますが、これをイメージすると、失敗します。私達はホコリだらけだからです。しかしそんな私達に向けて聖書は「聖くなれ」と言っています。私達には本来自らの状態を保とうとする性質があります。これをホメオスタシス(恒常性)と言います。お風呂に入った時、髪が伸びたら切ったりと私達は自分の外側をいつも保とうとしているのです。しかし内側を恒常的に保つ事は難しいものです。いくら私達が外側を保っても内側を保つ事ができなければ結果自らを失ってしまいます。

では、『聖さ』とは何でしょうか？

第1ペテロ 1:15 『あなたがたを召して下さった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。』こう書いてあるのだから私達は聖く貧しく美しく生きようと思します。しかし聖書ではそのような事は言っていません。聖書は十分の一を神に返し、あなたはそれで繁栄しなさいと言われていました。豊かになる事が目的ではなく、結果豊かになるという事が大事な事です。結果と目的を間違える事が良くないのです。ですから目的は聖くなる事ではなく、結果聖くされる事を知って下さい。したい事が出来ず、ことさらに嫌いな事を尊とんで行ってしまふ。それが私達です。

『ですから、あなた方は、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現れのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまじく欲望にしたがわず。』(第1ペテロ 1:13～14)これが聖さの答えです。

■ ヘブル語的解釈で見る「聖さ」

ペテロ書簡は散らされたユダヤ人に向けて書かれたものです。従ってギリシャ語で書かれた「聖さ」をヘブル語的解釈で見ていく必要があります。『聖さ』(ヘブル語) カダーシュ=聖であるこの『聖さ』が聖書で初めて使われている箇所は創世記です。

創世記 2:3 『神は第七日を祝福し、この日を聖であることとされた。それは、その日に、神がなさったすべての創造のわざをやすまれたからである。』 パーラス『祝福する、ほめたたえる』と同じ個所です。神様は「ありのままの姿」をよしとされました。要するに、『聖さ』とは『ありのままの姿』なのです。行いが聖さではなく、私達が本当の姿を見出すこととする姿が神の『聖さ』なのです。簡単に言うと、『本当の自分を探ることが聖くなる』ことです。私達は今の現状が本来の自分ではないことに気がつきません。過去のマイナスな出来事によって否定的な決断をして本当の姿を見失っているのです。怒りなどのマイナスな感情が内側にある時、感情によって心が促されます。しかし意思による決定は、正しい決断ができます。私達が決断する時、過去の出来事で感情に促されて物事を判断していませんか？それともあなたの本当の心が促すべき姿の決断をしていますか？

■ 「我慢」と「忍耐」

『ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現れのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。』(1ペテ 1:13)『聖さ』とは心を引き締め、もたらされる恵みをひたすら待ち望む事です我慢ではありません。『聖さ』というのは『忍耐』です。忍耐には方法があります。怒る時にも時があり、赦すことにも時がある。私達には、いつもそのときを見計らう知恵が必要です。この知恵を見計らう為

は、感情に促されると無理なのです。忍耐して時を待てば最後に必ず恵みがあります。

『聖さと罪』

聖くなるうとすると私達は、一人ではできません。だから仲間は大切です。良い行動をとると相手にも炭火を積む事になります。

『罪と叫ぶ血』

罪によっていのちが失われました。いのちとは何でしょうか？ 『ユーモア→フモア→レス→血』

私達の内側にある人を喜ばせる力は血であります。それがいのちのちなのです。淀川キリスト病院の柏木先生が自らのホスピスでの経験を基にユーモアについて研究をされました。その人が本来のうちに生きると周りの人達が喜ぶという事がわかったそうです。その人の集大成が死の2週間でわかったそうです。この血とは私達の体を絶えず向上的に保つために流れています。私達の体中を巡っている血がいのちです。いのちと肉体とは違います。しかし、この肉体が永遠であるいのちと連携している事で、人は生きています。つまり神との連携が霊、肉の命を生かすのが血というわけです。旧約の時代にはこの霊を失ったので、肉の命だけで生きようになりました。内側を綺麗にする方法を失ってしまったのです。聖書の中で初めて血が出てくる箇所は、カインとアベルの箇所です。兄のカインは神様の捧げものを適当に選んで捧げました。しかし弟は、一番大切な羊の中から生まれたばかりの羊を神様にプレゼントしたのです。神様はそれを見て心がある方を選びました。それを兄はえこひいきだと怒って、弟アベルを殺してしまつたのです。人はこの様に自分の感情を正しく見れなくなってしまいます。カインは自分の間違つた決断を直そうとせず、「えこひいき」だと神を呪おうとします。しかし、自分に罪があることを知っているので呪いきれず、弟を殺してしまう結果になりました。

『あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋慕している。だが、あなたは、それを治めるべきである。』(創 4:7)もう一度言います。あなたは感情的に間違つた決断をしないで下さい。

■ 自分を責めることと他人を責めることは同じ水準で起こる

自分が罪を犯しているのだから、その血が自分を責め立てているのです、血が叫んでいるのです。間違つた事を繰り返してはけません。だからこそ、そんな私達の為にイエス様は十字架の上で血を流されました。血によって私達は贖われたのです。これ以上、自分を守るために間違つた決断をし続けるのはやめましょう。あなたは「聖い」存在として造られたからです。正しく生きられる人は一人もいません。本来の姿に戻ろうとするその心が大切なのです。

「聖い」存在として造られた私たちは、例えどんな状況にあつたとしても「ハレルヤ！」と神様の前に出ることができます。自分の罪から目を背け自分を責め続けることをやめて、「本来の姿に戻りたいです。」と素直に神様の前に出ていきましょう。

さいごに

イエス様は人としてこの地上にお生まれになりました。私達と何も変わりません。しかしイエス様は戦いました。自分の感情に流されるのではなく、全てのことを意思によって決断されたのです。彼は生き様をもって私達に模範を示され、私達の罪の為に十字架に架けられました。『聖さ』とは『生き様』です。彼の生き様はあなたの生き様の代弁です。イエス様はいつも神の前に出て祈ることを大切にしました。神を褒めたたえたのです。自分の罪を神に告白する時、神はあなたを祝福します。それが礼拝です。今日あなたの重荷を降ろしましょう。神は必ずあなたを祝福します。『また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごさない。』(1ペテ 1:17) あなたの父は神です。父はあなたを守ると言われます。であるならばあなたは今日正しい決断をするべきです。そしてその決断は最善でなければ良い実を結ぶことはできません。私達の心の状況を映し出すのは生活環境です。自分の生活の人に見えない部分を整えて行くときにどの部分が最善でなくなっているのかが見えてきます。感情に支配される生活ではなく、いつも素直に神様の前に出られますように。そして私達が本来の姿に戻っていく過程で周りの人々に神様の喜びが流される人生となりますように。

(要約者:岡本 英樹)

(2021年3月21日)